

テーマ 子どもたちとともに～小中合同PTAのめざすもの～

発表者 岐阜大学教育学部附属学校PTA 白木 裕輔 岡本 達明 瀬川 典秀 下野 美智子
山田 絵里 萩野 順子 松浦江利子

1 はじめに

岐阜大学教育学部附属学校は、JR岐阜駅南東へ1キロの場所にあり、加納小学校や県立豊学校が隣接。当校は小中学校が同じ敷地内に併設されており、連携を取りながら学校教育が進められている。

2 児童・生徒たちの通学地域について

子どもたちは、幅広い通学地域から公共交通機関を使ったりして、小1より自力通学をしている。低学年の児童は今年度より受益者負担でGPSを携帯している。

3 生徒数及びPTA会員数について

小学校児童数646名、中学校生徒数501名で合計1,147名在籍し、PTA会員数は教員を含め、1,203名の大所帯である。

4 学校の歴史

昭和29年に旧岐阜大学学芸学部の建物を利用し、附属小中学校に充てた時より発足した。その後昭和36年に特殊学級を設置し、昭和41年に現岐阜大学教育学部附属学校に改称する。平成25年には創立60周年を迎える。

5 国立附属学校の社会的役割

本校は地域の中核研究機関として多くの研究会を開催し、先導的な教育実践による人材の育成や教員の養成など国立大学の附属としての重要な役割を担っている。

6 本校の教育理念

小学校は、「なかまの幸せのためによく考え・助け合い・創り出す健康な子供の育成」。中学校ではその教えを胸に「独歩・親愛・協働」を教育目標とし、温かみのある人柄を育てる「人間教育」が小中の共通教育理念となっている。保護者もPTA活動を通して、学校教育への理解と支援の姿勢を示している。

7 本校PTAの特徴と取り組みについて

- ◆1200名以上の会員数のため、スケールメリットを活かした予算配分が可能。
- ◆未就園児対象託児サービスを取り入れる事により、総会や授業参観の出席率が高い。
- ◆年7回開催される実行委員会では、小中学校と各養護学級委員と本部役員・幹部職員合わせて82名で平日の午前中にはほぼ全員が出席し行われている。
- ◆5つの専門委員会に分かれ、子供たちのために活動しつつ、親同士の幅広い情報交換の場となっている。また、実行委員会では、9学年の保護者が全ての情報を共有し、こどもの成長を見守る手助けとなっている。
- ◆年1回土曜PTAを実施。毎年様々な分野で活躍している方々を招き、親子で講演を聞く事で一緒に考え・学ぶ良い機会となっている。
- ◆不審者対策として、保護者ボランティアによる校内巡視や、保護者のストラップ着用の徹底、親子掃除など、学校と協力していつでも子供たちに寄り添う親の姿が見られる。
- ◆父性を活かした学校への関わりを深める事と、父親同士の交流を目的とした「父親の会」も設置。

8 小中合同PTAならではの課題

- ・校区を持たない学校として、広い地域から通学する子供たちの安心・安全問題。
- ・幅広い学年の保護者を対象とした講座内容の選定。
- ・小中共通の会報誌の発行など、合同PTAならではの課題と向き合いながら、子供たちの9年間の成長を見守っていく組織作りを今後も継続する必要がある。

9 わたしたち附属学校PTAがめざすもの

“わたしたちは小中の通常学級と養護学級の保護者がお互いの相互理解のもと、一緒に活動しています。そして、少しずつ改善も試みながら、子どもたちと共に学び、成長し合えるPTA活動を目指し、これからも‘共有・共生・共感’で取り組んでいきます。”